

インターネットのやくそく 守れている？

小学校・3年生

I プログラムについて

1 人権教育上のねらい（普遍的な人権課題「権利と責任」）

＝【人権感覚育成のための視点】

インターネットやゲームの使い方について考えることを通して、心身共に健康で楽しく生活するために、約束を守るという責任を果たそうとする態度を育成する。

◇関連する個別の人権課題「インターネットによる人権侵害」

2 関連する教科等について

○学級活動

内容（2） 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
（ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成）

3 人権教育上の視点

（1）自分の権利だけでなく、集団の一員として自分に合ったきまりや約束を決め、責任を果たそうとする態度を身に付けている。（価値・態度）

II アクティビティーについて

1 概要

○活動1

インターネットやゲーム等に関する良い面と悪い面を考える。

○活動2

事例から、約束の必要性について考えるとともに、ゲストティーチャーとして養護教諭を招き、健康面についての話を聞く。

○活動3

インターネットやゲーム等を使用するときの約束を考える。

2 準備するもの

- 事前アンケート
- 事前アンケートの結果
- 事例（ある日のできごと）
- 振り返りシート

3 アクティビティーの進め方

- 活動1 「インターネットやゲームの良い面・悪い面の見直し」
 - ① インターネットやゲーム等を使用する際の良い面を考える。
 - ② インターネットやゲーム等を使用する際の悪い面を考える。
- 活動2 「ケーススタディ」
 - ① 事例（ある日のできごと）から、インターネットやゲーム等の使い方について考える。
 - ② ゲストティーチャー（養護教諭）から、約束を守らないでインターネットやゲームを使用したときに起こる健康面の弊害について話を聞く。
 - ③ インターネットやゲーム等の使い方の約束の必要性について考える。
- 活動3 「使い方の約束についての話し合い」
 - ① インターネットやゲーム等を使用するときの約束を考える。
 - ② 振り返りを行う。

4 アクティビティーを指導する際のポイント

- インターネットやゲーム等の使い方を考えることを通して、自由に楽しく生活する権利は、他の人権を侵害することなく適切に使用する責任を果たした上で成り立つことを押さえる。また、約束を守るなどの責任を果たさないことで、周りの人に迷惑をかけてしまうことにも気付かせる。
- 多様な家庭環境が考えられるため、ケーススタディを取り入れてねらいに迫れるようにする。
- 養護教諭等のゲストティーチャーを招いて、健康面について話をしてもらうと効果的である。
- インターネットやゲーム等が悪いのではなく、上手に付き合うことが大切であることを押さえる。

第1章 理論編
 第2章 事例編
 人間の尊厳
 生命尊重
 自己尊重の感情
 共感と連帯感
 公平・公正
 多様性の尊重・共生
 コミュニケーション
 権利と責任
 参加・参画
 第3章 資料編

Ⅲ 授業の実際

時間	学習活動 発問 (T1:担任、T2:ゲストティーチャー) 児童の反応例 (C)	教師の働きかけ (・) 人権教育上の配慮 (◎)
5分	1 事前アンケートの結果を提示 2 インターネットやゲームの良い面・悪い面の見直し T1 インターネットやゲームの良いところはどんなところでしょう。 C 楽しい。 C 知らないことを知ることができる。 C 暇つぶしになる。 T1 インターネットやゲームの良いところはないところはどんなところでしょう。 C 視力が悪くなる。 C やめられない。 C 長くやってしまう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">自分に合ったインターネットやゲームのやくそくを決めよう</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前アンケートの結果から、本時の課題を自分のこととして意識できるようにする。 ・インターネットやゲームをしている時のことを想起させる。 ・携帯型ゲーム機やタブレットも含めて考えさせる。 ・出された意見を共感的に受け止め、思い付いたことをどんどん発表させる。
30分	3 ケーススタディ T1 Aさんのお話です。Aさんは、ゲームが大好きな小学3年生です。先生が読むので、Aさんと同じようなことはないかなと考えながら聞いてください。 T1 Aさんは、お祭りの出し物を決めることを楽しみにしていたのに、どうしてグループのみんなを困らせることになってしまったのでしょうか。 C 体がだるくて、やる気が起きなかったから。 C ゲームのし過ぎで、寝不足だったから。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活を振り返りながら事例（ある日のできごと）を聞かせることで、Aさんに起こったことは誰にでも起こり得ることだと考えられるようにする。 ・児童から出された意見を板書して、Aさんの問題点を視覚でもとらえられるようにし、約束を守る必要性について考えられるようにする。

	<p>C 家の約束を守らないで、ゲームをしていたから。</p> <p>T1 Aさんは約束を守らなかったため、大変なことになってしまいました。今日は、保健室の先生にお話をさせていただきます。</p> <p>T2 これから、インターネットやゲームのやり過ぎが、みなさんの心と体にどのような影響を与えるのかをお話します。みなさんは、なぜ約束が必要なのかを考えながら聞いてください。</p> <p>T2 なぜ、約束を守ることは必要なのでしょう。</p> <p>C 約束を守らないと、自分も楽しくないし、人に迷惑をかけてしまうことがある。</p> <p>C 自分が健康で楽しく過ごすため。</p> <p>4 インターネットやゲームの約束についての話し合い</p> <p>T1 インターネットやゲームを使うとき、みなさんは、どのような約束があるとよいと思いますか。</p> <p>C 一日のうち、ゲームをしてよい時間を決める。</p> <p>C 使わない時間は、ゲーム機を家の人に預ける。</p> <p>C 家の人と、約束を確認する。</p> <p>C 家族でルール作りをする。</p>	<p>・インターネット等のやり過ぎによる弊害として、次の点に留意する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>・睡眠不足 ・視力低下 ・意欲の低下 ・慢性疲労 ・ひきこもり ・運動不足 など</p> </div> <p>・インターネットやゲーム等のやり過ぎによる弊害だけでなく、インターネットやゲーム等の良さを認めた上で、それらを楽しく使うためには、約束を守るという責任が伴うことを押さえる。</p> <p>◎児童が考えた約束のよさを共感的に受け止めながら、実行可能な約束を考えさせることで、実践への意欲を高める。(価値・態度)</p>
<p>10分</p>	<p>5 振り返り</p> <p>T1 今日の学習を振り返り、考えたことや分かったことを書きましよう。</p> <p>T1 自分のインターネットやゲームの約束を決めましよう。</p>	<p>・必要に応じて、家の人と相談し、考えた約束を見直してもよいことを伝える。</p> <p>◎約束を守ることができたかどうかの振り返りを1週間実施するとともに、保護者に取組について知らせ、実践行動へと結び付けられるようにする。(価値・態度)</p>

(3) 振り返りシート

インターネットのやくそく 守れている？ ふりかえりカード

名前 ()

- 1 今日の学習をふりかえって、考えたことやわかったことを書きましょう。

- 2 家でのインターネットやゲームの使い方のやくそくを考えましょう。

【やくそく】
わたしは、

- 3 2で考えたやくそくを守れているかふりかえりましょう。
やくそくを守れた日には、○をつけましょう。

() 月

日	日	日	日	日	日	日

1 週間をふりかえって

新しい大陸に向けた航海

～何を船から投げ捨てますか？～

小学校・5～6年生

I プログラムについて

1 人権教育上のねらい（普遍的な人権課題「権利と責任」）

＝【人権感覚育成のための視点】

欲しいものと必要なものとを区別する活動を通して、人間にとって必要不可欠な人権の重要性について考えようとする態度や、集団の一員として責任を果たそうとする態度を育てる。

2 関連する教科等について

○学級活動

内容項目（2） 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
（イ よりよい人間関係の形成）

3 人権教育上の視点

- （1）自分の権利だけでなく、集団の一員としての責任を果たそうとする態度を身に付けている。（価値・態度）
- （2）相手の気持ちを尊重しながら、自分の考えを適切に主張し、責任を遂行することができる。（技能）

II アクティビティーについて

1 概要

○活動1

各自が、体験活動「新しい大陸に向けた航海 ～何を船から投げ捨てますか？～」を実施し、新しい国には、何が必要なのかについて考える。

○活動2

自分の考えをもとに4～6人で話し合い、グループの考えをまとめる。何を捨てるかを決めた理由についてもグループでまとめる。

2 準備するもの

- 教師用読み物カード
- 荷物カード…個人用A3判、グループ用A2判（切り取って使用）

3 アクティビティーの進め方

- 活動1 「新しい大陸に向けた航海 ～何を船から投げ捨てますか?～」
 - ① 体験活動の説明を聞き、活動に見通しをもつ。
 - ② 荷物カード（個人用）に自分の考えを書く。
- 活動2 「話し合い」
 - ① 自分の考えをもとにグループで意見交換をし、グループとしての考えをまとめる。
- 活動3 「振り返り」
 - ① 活動を通して、気付いたことや考えたことを振り返る。
 - ・他者の考えに対する理解を深める。
 - ・権利と責任の大切さについて考えを深める。
 - ・今後への生かし方について考える。

4 アクティビティーを指導する際のポイント

- 荷物の順位付けが目的ではなく、「権利と責任」について考えを深めることが最大のねらいであることを指導する。
- 荷物カードの内容について十分確認し、よく考えて活動を行うよう指導する。
- 振り返りを通して、生きていくために必要だと思うものは人それぞれ違い、それらを認めることの大切さについても触れる。

III 授業の実際

時間	学習活動 発問（T） 児童の反応例（C）	教師の働きかけ（・） 人権教育上の配慮（◎）
5分	1 アイスブレイキング「仲間探し」 T 先生の言うテーマを聞いて、同じ仲間を探してください。例えば、「生まれた月」と言われたら、同じ月の人を探してください。 T 次は「出席番号の1桁目の数が同じ」の人を探してください。 C 他の人と一緒にうれしい。	・ルールの説明を簡潔に行う。 ・児童の緊張を和らげ、展開へとつなげる。
	2 学習内容（手順）の確認 体験活動（新しい大陸に向けた航海） 新しい国のみんなにとって本当に必要なものは何だろう	・本文◎を読む。

33分	<p>3 個人による分類 (荷物カードへの記入)</p> <p>T 荷物カードについて、絶対に必要なものは○、欲しいものは△、いらぬものは×を太枠内に記入しましょう。</p> <p>T 自分の考えを友達と相談せずに記入しましょう。</p> <p>4 グループによる決定 (話し合い活動)</p> <p>T グループで話し合い、グループとして船の外に捨てる荷物を三つ選びましょう。</p> <p>T 捨てる荷物が決まったら、「①」と番号を書き、まとめておきましょう。(2回目は②、3回目は③)</p> <p>T 捨てなかった荷物を残した理由も書きましょう。</p> <p>5 各グループの意見発表</p> <p>T ○グループさんは「生きるために必要なもの」を全て持っていますか。また、「健康で、発展していくために必要なもの」を全て持っていますか。</p> <p>T もし「○○」(例:「教育」)を持たないとしたら、新しい国でどんなことが起こると思いますか。</p> <p>C 「教育」はなくても生きてはいけそうだけど、国が発展していかないと思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・分類だけに終始せず、そう考える理由を説明できるように促す。 ◎自分にだけでなく、みんなに大切なものという視点から考えられるように、「みなさんは力を合わせて」という点を十分踏まえて判断するように伝える。(価値・態度) ・児童に聞かれた場合、荷物はどれも同じ重さであると伝える。 ・本文①を読む。 ・グループごとに荷物カード(グループ用)を配布し、グループとしての意見をまとめられるようにする。 ◎安易に多数決で決めたりせず、互いの考えの理由を述べ合いながら、グループとして責任ある決定を目指すように助言する。(技能) ・本文②、③も同様に行う。 ・本文④、⑤を読む。 ・各グループの発表後に、「生きるために必要なものを全て持っているか」「健康で、発展していくために必要なものを全て持っているか」という2点をクラス全体に問いかけ、考えさせる。 ・人権は、人間が必要とするものであること、つまり、あらゆる人間が生存し、よりよく成長し、尊厳ある生活を送るために必要とするものであることを確認する。 ・単に生命が保たれているだけでは不十分であり、互いの権利を尊重し合うことが必要であることを確認する。
-----	---	--

7 分	<p>6 振り返り</p> <p>T グループで今日の活動の振り返りをしましょう。</p> <p>C 自分の考えとは違う考えもあったが、理由を聞いたらその考えにも納得できた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で今日の学習を振り返るように指示する。 ・ねらいに沿った感想を出していたグループに感想を発表させ、学級全体で共有できるようにする。
--------	---	--

IV 資料

(1) 教師用読み物カード

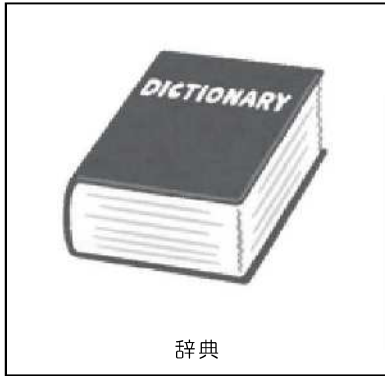
新しい大陸へ向けた航海

- ① これからみなさんは、だれも住んでいない新しい大陸に向けて、船に乗り出発します。新しい大陸で、みなさんは力を合わせて新たな国をつくり、生きていくこととなります。配布した22個の荷物は、新たな国をつくり、生きていくために用意したものです。大切に持っていきましょう。
- ② 初めは、航海はとても快適でした。太陽は輝き、海はおだやかです。しかし、大きな嵐が突然やってきて、船が揺れ動いています。船が沈まないように、荷物のうち三つを船の外に捨てなければなりません。しかし、一度捨てたらもう荷物は手に入りません。
- ③ やっと嵐がおさまりました。みんな本当にホッとしています。しかし、再び大きな嵐が船に向かって接近しています。かなりの速さです。生き残るためには、船の速度を上げる必要があります、また三つの荷物を捨てなければなりません。ただし、新しい国で必要であると思われるものは捨ててはいけないことを忘れないでください。
- ④ 荷物を捨てたことで、何とか大きな嵐を避けることができました。新しい陸地も見え始めましたし、ここまでくればもう大丈夫です。しかし、今度は巨大なクジラが船にぶつかって、船の横に大きな穴を開けてしまいました。船を軽くしないと新しい大陸までもちそうにありません。さらに三つの荷物を船から投げ捨ててください。
- ④ みなさんががんばりましたね。ついに新しい大陸にたどり着きました。そして、新しい国をつくる準備ができました。持ってきたものを全員が覚えておくことができるように、グループごとに1枚の紙にまとめます。
あなたたちは生きるために必要なものを全て持っていますか。十分に健康で、発展していくために必要なものは全て持っていますか。
- ⑤ 1グループずつ黒板の前で発表しましょう。(発表後、クラス全体に④の二重線部分について不足しているものはないかどうかを質問する。)

第1章 理論編
 第2章 事例編
 人間の尊厳
 生命尊重
 自己尊重の感情
 共感と連帯感
 公平・公正
 多様性の尊重・共生
 コミュニケーション
 権利と責任
 参加・参画
 第3章 資料編

(2) 荷物カード (必要なもの…○ 欲しいもの…△ いらないもの…×)

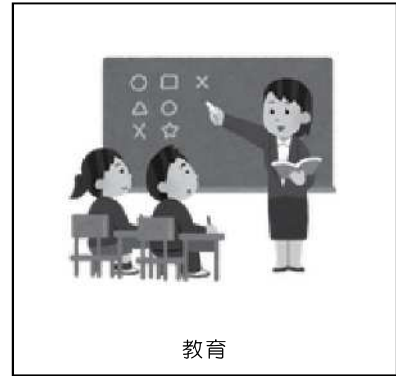




辞典



栄養のある食べ物



教育



医者



自転車



おもちゃとゲーム



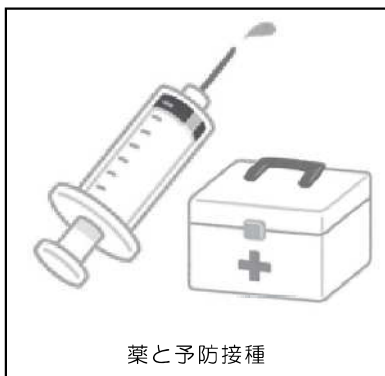
おかし



ごはんやパン



あたたかい服



薬と予防接種

捨てなかった荷物を残した理由

V 出典・参考資料

- 「コンパシット【羅針盤】子どもを対象とする人権教育総合マニュアル」
（平成21年）ヨーロッパ評議会 企画、福田 弘 訳、
財団法人 人権教育啓発推進センター 発行

情報化社会をどう生きる？

中学校・1～3年生

I プログラムについて

1 人権教育上のねらい（普遍的な人権課題「権利と責任」）

＝【人権感覚育成のための視点】

個人情報の取り扱いやSNSの危険性に関する学習活動を通じて、情報モラルの意義を理解し、自他の権利を守るために責任ある行動をとることができるようにする。

◇関連する個別の人権課題「インターネットによる人権侵害」

2 関連する教科等について

○道徳

内容項目 [A 自由と責任]

3 人権教育上の視点

(1) 自他の権利を守るためにSNS上での個人情報の重要性に気付き、大切に取扱おうとする。(価値・態度)

II アクティビティーについて

1 概要

○活動1

事前に、自己紹介カードに自己紹介文と似顔絵を自由に書く。

○活動2

ワークシートにあるSNSと情報の取扱いに関する問いについて、グループで意見交換を行う。

○活動3

事例カードを見て、それぞれの問題点と対応策について個人で考えた後、グループで意見交換を行い、出された意見を発表する。

2 準備するもの

- ワークシート
- 自己紹介カード
- 事例カード
- 色鉛筆（似顔絵を描くために必要な場合）

3 アクティビティーの進め方

- 活動1 「自分を表現するためには？」～自己紹介カード～
 - ① 自己紹介カードの記入の仕方の説明を聞き、自己紹介文を書く。
 - ・自分だと分かるように具体的に記入する。
 - ② 記入後、3～4人グループになって、カードをもとに1分間自己紹介を実施する。
- 活動2 「話し合い」
 - ① 活動1を踏まえて、ワークシートのQ1とQ2の二つの問いに対してグループで話し合う。
 - ② 発表者を決め、話し合った内容を発表する。（時間が足りない場合は、省略してもよい。）
 - ・活動内容を踏まえて教師側が補足説明を行う。
- 活動3 「事例カードから考える」
 - ① 事例カードを使用した活動の説明を聞く。
 - ② 個人でそれぞれの事例について問題点と対応策をまとめる。
 - ・時間がなければ、事例カードの中から一つ選択して考えさせる。
 - ③ グループで話し合い、その後グループごとに発表する。

4 アクティビティーを指導する際のポイント

- 個人情報が出ること、トラブルや犯罪にもつながり、自他の人権を侵害することにもなる。活動後の振り返りの時間を設ける中で、情報モラルを身に付け、自他の権利を守るための責任ある行動をとるように指導する。
- 自己紹介カードに記入する字数を指定し、載せられる範囲内で、どれだけ自分を表現できるかを考えさせる。
- 自己紹介カードで知った友達の個人情報は、今回の活動に必要なものであり、知り得た情報は決して外部に出さないように指導する。また、自己紹介カードは、終了後に教師が回収して破棄することを生徒に伝える。
- 例えば、3年生の社会科公民的分野で学ぶ「情報化」を扱った授業後に、内容を補充・深化・統合するように指導すると効果的である。

第1章 理論編
 第2章 事例編
 人間の尊厳
 生命尊重
 自己尊重の感情
 共感と連帯感
 公平・公正
 多様性の尊重・共生
 コミュニケーション
 権利と責任
 参加・参画
 第3章 資料編

Ⅲ 授業の実際

時間	学習活動 発問 (T) 生徒の反応例 (S)	教師の働きかけ (・) 人権教育上の配慮 (◎)
10分	1 グループで自己紹介 T グループになり、記入したカードを使って1分間で自己紹介をお願いします。 S 自分を表現するのは難しい。	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ分けは、人間関係に配慮し、教師が事前に編成しておく。 ・他人の自己紹介をしっかりと聞き、お互いのよさを認め合える環境をつくるために、否定的な発言をしないように指示する。
35分	2 学習内容の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・この後のグループでの活動の流れを説明する。
	情報化社会における責任ある行動について考えよう	
35分	3 話し合い① T 各自でワークシートのQ1、Q2を記入し、グループで意見交換をしてください。 S SNS上にアップされていたら、知らない人が情報を入手できる。 S 情報が世界中に拡散する可能性がある。 S 住所・年齢・生年月日等は載せてはいけない情報だ。	<ul style="list-style-type: none"> ・司会と記録、発表者を決めさせることで、スムーズな話し合い活動を促す。 ◎自己紹介カードの内容がトラブルにつながる可能性について考えさせるために、その情報がなぜ危険なのかについて、できるだけ具体的に考えるように助言する。(価値・態度)
	4 話し合い② T 事例カードを読んで、それぞれの問題点と対応策及びその理由について、グループで意見交換をしてください。 T 各グループで出た意見を発表してください。	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの事例カードの状況を説明する。 ・自分がその立場に立ったらどう思うかを考えて、お互いに意見交換ができるように指導する。 ・グループ内で合意形成をする必要はないことを確認する。
5分	5 振り返り T 今日の学習を振り返り、考えたことをワークシートに記入してください。 S 周囲の人にも迷惑をかけてしまうので、責任をもって情報を扱いたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・数名の生徒に発表してもらい、学級全体で共有する。 ・この活動で知った個人情報を外部に出さないように必ず指導する。

IV 資料

(1) 自己紹介カード

		プロフィール設定
		画像添付 (似顔絵可)
名前		
アカウント ID @		
①	ひとことコメント ()
②	誕生日 ()
③	血液型 ()
④	現在の職業 ()
⑤	趣味・特技 ()
⑥	好きな曲 ()
フリースペース (200 字以内)		

(2) 事例カード

① A君は同級生のBさんの豪華な家に感動した。そして記念に1枚、スマホで外観を撮影し、ブログに投稿した。

② コンビニエンスストアでアルバイトをしているCさんが、深夜に冷凍ケースの中に入った自分の写真を撮影し、コメントを付け加え、SNSに投稿した。

③ メッセージアプリのグループトークで中学生のDさんは、忙しさのあまり、メッセージを読んでも返信しない日々が多かった。既読スルーが多かったので、同じグループのメンバーは、Dさん抜きに他のグループをつくり、Dさんの悪口を言っている。

④ EさんとFさんで撮った写真がうまく撮れていたため、SNS上に氏名と中学校名を載せてアップした。その後アップした写真が別のサイト上で使用されていた。

⑤ 中学生のG君が先輩から変なポーズをとるように言われ、仕方なくとったところ、その姿をスマホで撮影され、クラスの仲間にメールで送られた。

⑥ メッセージアプリで、HさんとIさんは、よくやりとりをしている。Hさんと仲の良いJさんは、Iさんとも仲良くしたいというので、HさんはJさんにIさんの個人IDを教えた。

(3) ワークシート

情報化社会をどう生きる？

()年()組()番 氏名()

☆「自分を表現するためには？」

Q1 もし自己紹介カードに載っている情報がSNS上にアップされていたら、どうなるでしょうか。

Q2 SNSに載せてはいけない情報とは、どんなものでしょうか。

☆「あなたならどうする？」～事例カードを見て、考えよう！

事例	問題点	対応策
①		
②		
③		
④		
⑤		
⑥		

<今日の学習を振り返って考えたこと>

社会の海へ漕ぎ出す君へ

～「権利」と「責任」の関係は？～

高等学校・1年生

I プログラムについて

- 1 人権教育上のねらい（普遍的な人権課題「権利と責任」）
 =【人権感覚育成のための視点】
 権利と責任の関係を考える活動を通して、人間らしく生きるため、権利に基づいて行動し、その行動に責任をもつことができるようにする。
- 2 関連する教科等について
 ○公民
- 3 人権教育上の視点
 (1) 自分の権利を主張するだけでなく、集団の一員としての責任を果たそうとする態度を身に付けている。(価値・態度)

II アクティビティーについて

- 1 概要
 - 活動1
 グループ活動を通して、年齢によって認められる権利が異なることを理解する。
 - 活動2
 グループ活動を通して、権利ごとに認められる年齢が異なる理由を考える。
 - 活動3
 グループ活動を通して、権利と責任の関係を理解する。
 - 活動4
 個人活動を通してまとめた個人の気付きや感想を、全体で共有する。
- 2 準備するもの
 - ワークシート
 - カード対応シート
 - 白紙の「権利カード」「責任カード」（カード対応シートに縦2列に並べられる大きさ）

3 アクティビティの進め方

○活動1 「各権利の年齢別区分」

- ① グループで、ワークシートの各事項を、法律によって認められたり、できるようになったりする年齢ごとに区分し、表を完成させる。
- ② 教師が正解を発表し、答え合わせをする。
- ③ 15歳から18歳までに認められたり、できるようになったりする事項が多く集まっていることに気付き、高校時代に多くの権利が認められるようになることを理解する。

○活動2 「認められたりする年齢が違う理由」

- ① グループで、「深夜労働」が認められる年齢の違いについて考える。
- ② 全体での発表により、権利が制限されるのには様々な理由があることに気付く。
- ③ グループで、自動車免許の取得の年齢制限について考える。
- ④ 全体での発表により、「権利」が認められることで「責任」が求められることを理解する。

○活動3 「権利と責任の関係」

- ① 学級での活動を舞台とした設定のもとに、グループ別に、学級の一員としての「権利カード」「責任カード」を作成する。
- ② 「権利カード」と「責任カード」を作成したグループ同士で新グループを作り、カード対応シートにそれぞれのカードを並べる。
- ③ グループで、どの「権利カード」と「責任カード」が対応するのかを考え、対応するカード同士を線で結ぶ。
- ④ 全体での発表により、権利と責任が関係深いものであることに気付かせる。

○活動4 「振り返り」

- ① 学習を通して感じたことなどをワークシートにまとめる。
- ② 全体での発表により、個人の気付きや学びを共有する。

4 アクティビティを指導する際のポイント

- 正解を答えさせるのではなく、様々な考えを尊重することで、主体的に権利と責任について考えることができるような活動になることを意識して指導にあたる。
- ワークシート中、作業1のA～L、作業3の事例の設定は、学校の実態等に応じて、内容を部分的に変更して実施することも考えられる。
- 活動3の「権利カード」「責任カード」はあらかじめ教師が用意しておいて取り組ませることも考えられる。
- 例えば、学校行事への取組など、学級集団として活動する時期に実践すると効果的である。

第1章 理論編
 第2章 事例編
 人間の尊厳
 生命尊重
 自己尊重の感情
 共感と連帯感
 公平・公正
 多様性の尊重・共生
 コミュニケーション
 権利と責任
 参加・参画
 第3章 資料編

III 授業の実際

時間	学習活動 発問 (T) 生徒の反応例 (S)	教師の働きかけ (・) 人権教育上の配慮 (◎)														
10分	<p>1 本時の学習内容の確認</p> <p>2 年齢別に認められる権利の確認 T グループで、作業1の事項を、法律によって認められたり、できるようになったりする年齢ごとに区分し、表を完成させましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p style="text-align: center;">〔年齢別の区分表〕 答え</p> <table border="1" style="margin: 0 auto;"> <thead> <tr> <th>年齢</th> <th>事項</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0歳</td> <td>H</td> </tr> <tr> <td>15歳</td> <td>D・J</td> </tr> <tr> <td>16歳</td> <td>A・L</td> </tr> <tr> <td>18歳</td> <td>C・F・G</td> </tr> <tr> <td>20歳</td> <td>B・E・I</td> </tr> <tr> <td>25歳</td> <td>K</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">平成30年11月現在</p> </div>	年齢	事項	0歳	H	15歳	D・J	16歳	A・L	18歳	C・F・G	20歳	B・E・I	25歳	K	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配布し、本時の学習内容について説明する。 机間指導を行い、作業が進まないグループには、各年齢の事項数をヒントとして教えるなどして、活動を活性化させる。 15歳から18歳までに多くの事項が集まっていることに気付かせることにより、高校時代に多くの権利が認められるようになることを理解させる。 <p>※新聞配達や映画製作・演劇の事業では、15歳未満でも特別な許可を条件として、例外的に修学時間外に働かせることができる。</p>
年齢	事項															
0歳	H															
15歳	D・J															
16歳	A・L															
18歳	C・F・G															
20歳	B・E・I															
25歳	K															
30分	<p>3 グループでの協議 T グループで、18歳以上であれば許可される「深夜労働」が、原則として15歳以上18歳未満では許可されないのはなぜか、その理由について考え、発表しましょう。 S 「深夜労働」は体への負担が大きく、成長途中の18歳未満の子供には悪影響だから。 T グループで、16歳になると400cc以下の普通二輪車や原動機付自転車の免許が取得できるのに、普通自動車免許は18歳以上にならないと取得できないのはなぜか、その理由について考え、発表しましょう。 S 車の方が事故を起こした時の被害が大きくなり、被害の補償など運転にはより大きな責任が求められるので、年齢を引き上げてある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「深夜労働」が許可される年齢を引き下げると、成長途中の子供までが「深夜労働」に従事させられる可能性があることを指摘することで、権利は無制限に広げることが良いのではなく、制限されることには理由があることに気付かせる。 自動車を運転することで発生する「責任」についての発言を取り上げることで、「権利」が認められる一方で「責任」が求められることを理解させる。 <p>※平成34年度から、民法改正により成人年齢が現行の20歳から18歳に引き下がることに留意する。</p>														

	<p>4 カードの作成と分類</p> <p>T 学園祭でクラス展示をすることになりました。みんなで準備を進めクラス展示を完成させるために必要な「権利として認め合いたいこと」、「責任として果たすこと」を考え、それぞれ「権利カード」「責任カード」を作りましょう。</p> <p>T 「権利カード」「責任カード」を作成したグループ同士を併せて新たなグループを作りましょう。それぞれのカードをカード対応シートに並べ、対応するカード同士を線で結びましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">〔カード例〕</p> <p>「権利カード」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を聴いてもらえる。 ・疲れたら休憩できる。 ・苦手な作業は他の人に代わってもらえる。 ・他に大切な用事がある場合はそちらを優先できる。 <p>「責任カード」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の人の意見に耳を傾ける。 ・与えられた仕事は最後までやり通す。 ・リーダーに状況を報告する。 ・特別な事情がない限り、時間いっぱい作業に取り組む。 </div> <p>T 各グループで考えた、対応する「権利カード」と「責任カード」について発表しましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カード作成用の台紙を配布し、以下のような指示をする。 ※A・B・Cグループは「権利として認め合いたいこと」を考えて「権利カード」を作成しましょう。 D・E・Fグループは、「責任として果たすこと」を考えて「責任カード」を作成しましょう。 ・別のカードを作成したグループ同士を一つのグループにさせ、カード対応シートを配布し、次の指示をする。 ※AとD、BとE、CとFが新たなグループになり、配布されたカード対応シートの左半分「権利カード」を、右半分「責任カード」を縦一列に並べ、どの「権利カード」と「責任カード」が対応するのかを考えて、対応するカード同士を線で結びましょう。 ・一つの「権利（責任）カード」に対応する「責任（権利）カード」が複数存在する場合もあることを補足説明し、権利と責任が関係深いものであることに気付かせる。
<p style="text-align: center;">10 分</p>	<p>5 振り返り</p> <p>T 今日の授業で感じたこと、気付いたこと等をワークシートに書き、発表しましょう。</p> <p>S これからは、自分の権利ばかり主張するのではなく、自分の責任も果たすようにしていきたい。</p> <p>S 権利と責任は、コインの表裏の関係と同じだと思った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全体発表により、個人の学びを学級全体で共有できるようにする。 ◎自分の権利を主張することだけでなく、集団の一員としての責任を果たすことも大切であることを理解できるように、ねらい沿った感想等を取り上げ、称賛する。 <p style="text-align: center;">（価値・態度）</p>

IV 資料

(1) ワークシート

()年()組 氏名()

◇作業1：「何歳から？」

以下のA～Lの事項について、日本の法律等で認められたり、できるようになったりする年齢を考え、年齢別の区分表に記入しましょう。(平成30年11月末現在)

- A 200ccの献血ができる。
- B 本人同士の意味だけで結婚できる。
- C 選挙で投票することができる。
- D 原則として、深夜〔22:00～5:00〕でなければ労働ができる。
- E (未婚で)保護者の同意を得ずに、携帯電話を購入できる。
- F 深夜〔22:00～5:00〕の労働ができる。
- G 普通自動車の運転免許が取得できる。
- H 憲法の基本的人権のほか、一般的な権利を得て、義務を負う。
- I 飲酒や喫煙ができる。
- J 自分で遺言を書くことが有効となる。
- K 衆議院議員、都道府県議会議員、市町村長の選挙に立候補できる。
- L 400cc以下の普通二輪車、原動機付自転車の運転免許を取得できる。

〔年齢別の区分表〕

年 齢	事 項
0 歳	
1 5 歳	
1 6 歳	
1 8 歳	
2 0 歳	
2 5 歳	

◇作業2：「あなたはどうか考える？」

以下の1・2について、グループで話し合いました。

- 1 18歳以上であれば許可される「深夜労働」が、原則として15歳以上18歳未満では許可されないのはなぜか、その理由を考えてみましょう。

- 2 400cc以下の普通二輪車や原動機付自転車の免許が取得できるのに、普通自動車免許は18歳以上にならないと取得できないのはなぜか、その理由を考えてみましょう。

◇作業3：「みんなで準備を進めクラス展示を完成させるためには……」

学園祭でクラス展示をすることになりました。みんなで準備を進めクラス展示を完成させるために、「権利として認め合いたいこと」と「責任として果たすこと」を考え、「権利カード」、「責任カード」を作成しましょう。

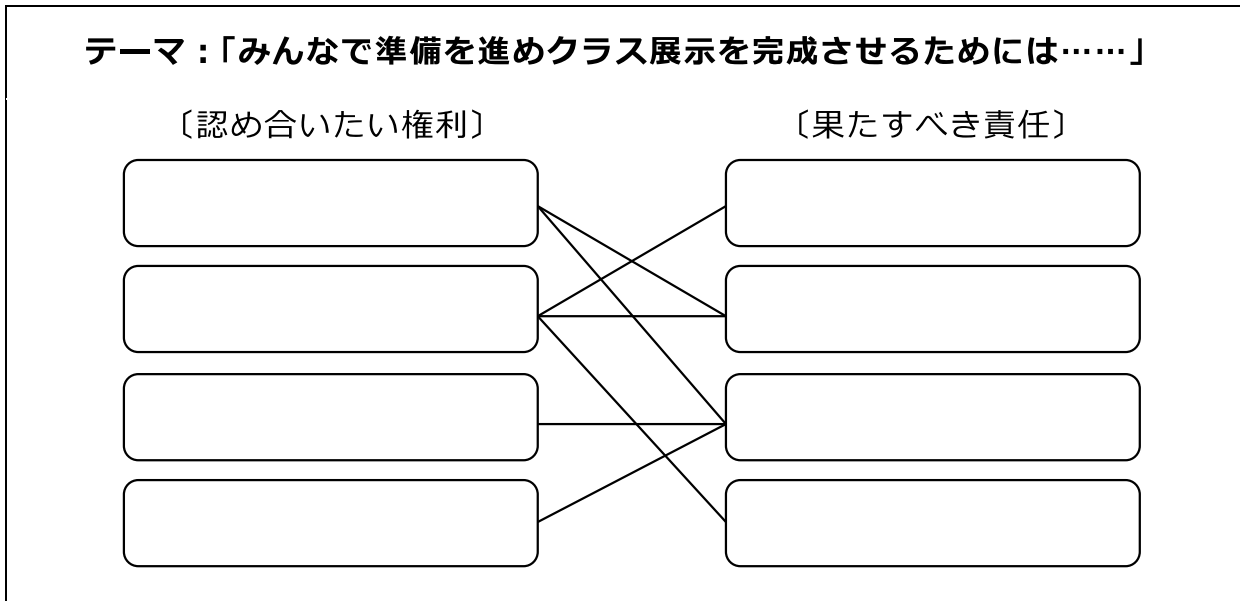
◇作業4：「権利と責任の関係は……」

カード対応シートの左半分に「権利カード」を、右半分に「責任カード」を縦一列に並べ、対応すると思うカード同士を線で結びましょう。

◇振り返り

今日の授業で感じたこと、気付いたこと等を自由に書きましょう。

(2) カード対応シート (完成例)



V 出典・参考資料

- 「人権教育指導者用手引き『気づく・学ぶ・広げる人権学習』
(平成16年3月) 和歌山県教育委員会